

ご愛用者様インタビュー

# フルマラソンと二つの仕事、その全てを楽しく続けるエネルギーになっています。

表具師 高梧堂代表

嶋岡 俊夫 様 55歳

日本古来の伝統職人・表具師として活躍される一方、地元の特産品の開発にも携わり、さらに、趣味であるマラソンの大会にも精力的に参加されているという嶋岡様。そのエネルギッシュな毎日の活力はいったいどこからきているのか、お訪ねしてお話を伺いました。



### 表具師 高梧堂

住所：奈良県桜井市三輪 1188-2  
TEL：0744-42-6376  
営業時間：9:00～18:00  
<http://www.kougodo.jp/>

### 弱点を克服し 目標の 3時間半を達成！

#### イミダペプチドとの出会いは。

私は6年前から趣味でフルマラソンをしているんですが、2年前に3時間37分の自己ベストを出してから、3時間半を目標にしていたんです。でも昨年からは35〜38kmぐらいでふくらはぎに疲れを感じ、いったん止まって水をかけるなどをしないと走れなくなってしまう。そんな時に、イミダペプチドを箱根駅伝の強豪校が飲んでるということを知り、試してみようと思ったんです。

#### 飲まれてみていかがでしたか。

昨年11月にまずはお試しからドリンクの購入を始めたのですが、トレーニングで20km走る前に飲んでみたら全然きつくならないうし、逆にペースアップして、最後はダッシュで帰ってこれたんです。それでびっくりしてしまって。それから毎朝飲むようになり、12月前半の大会ではスタート前にも飲んで



▲自己ベストを更新したレース後でも、清々しい笑顔の嶋岡様。

だら足がすごく軽かったです。自分にとつて難所の35〜38kmも全く止まることなく走り切れ、目標の3時間半のタイムを切る事ができました。この時「イミダペプチド恐るべし」と感心しました。実は妻も同大会の「10km走」の部にイミダペプチドを飲んで出場したところ、自己ベストを更新したんです。

#### それはすごい！タイムへの挑戦は続けられるのでしょうか。

いいえ、今の目標は、来年2月に行われる「別府大分毎日マラソン」への出場です。大分は妻の故郷なので、「両親や親戚の方に走る姿を見てもらえたら」と笑。ただ、3時間半を切らないと出場資格がもらえない厳しい大会なので、

イミダペプチドを欠かさず飲んで、開催の時までタイムを維持していきたいと思っています。

### 表具師と特産品の開発 イミダペプチドが 二足のわらじの支えに

嶋岡様の職業「表具師」とはどんなお仕事なのでしょうか。

簡単に言えば、和室の内装で紙を扱う仕事全般が表具師の仕事です。襖、障子、額、屏風、掛け軸やお茶室の腰張りなどがそのです。行燈の張り替えを頼まれる事もありますね。紙を扱う、紙を張る仕事です。

嶋岡様で三代目と伺っています。が継がれたきっかけは。

1923年に祖父がここ奈良県は三輪山の麓で創業して、今年で94年目になります。元々自分がいつか継ぐんだろうなという意識はありましたが、大学卒業後に「やっぱり自分の行くところはここだ」と思ったんです。最初は京都の表具店で5年修業をして、この店

に戻ったのですが、本当に厳しい世界でした。同じ表具師と言っても、今は「襖と障子のみ」という方も結構いるんですが、私は父から、紙に関する仕事はなんでもできるよという仕込まれたので、それが今も強みになっています。

#### 表具師のお仕事の魅力とは。

やっぱり古いものを預かって、それをきれいにしてお持ちした時に「こんなに綺麗になったんだ」と驚いてもらえる時が一番うれしいです。お客さんが思っていた以上の結果が出た時にそういう表情をしてくださるんですよ。

#### 逆に難しいところは。

100年以上前の貴重な品を扱うこともありますし、破れたり反ったりしてしまった屏風の絵柄が合うよう貼り合わせるなど繊細な作業が続くので、どうしても目に来ますね。あとは根を詰める作業なので、自分は無意識ですが、妻に驚かれるくらい疲れた顔をしている時もあるみたいです(笑)。

#### そんなご多忙の中、もう一つお仕事を持たれているんですね。

地元の活性化を目指して開発した「三輪の七福素麺」の販売です。家のすぐ近くに、大神神社という由緒ある神社があり、多くの方が参拝に来られるんですが、みなさん「買って帰るお土産がない」とおっしゃっておられて。そこで、三輪特産の素麺をお土産にしようと考え、神社がやっていた「七福八宝めぐり」にかけて、7色の「七福素麺」を開発したんです。

#### 公私共にエネルギッシュな毎日を過ごされていますが、疲れを感じられることは。

普段は年齢のことは考えないですし、あまり疲れを感じないほうなのですが、やっぱり疲れが溜まっ



▲嶋岡様が開発された「三輪の七福素麺」。パッケージの裏側に掛け軸の絵が印刷されており、付属のポストカードをセットすれば、掛け軸として楽しめる。



▲背後に見える大きな掛け軸は、ある自治会が保存している、嘉永2年の掛け軸「涅槃図」。嶋岡様が約1ヵ月かけ修復した。